

昭和 47 年度全国大会経過報告

土木学会西部支部

1. はじめに

年次学術講演会における講演発表数は年々増大する傾向にあるが、とくに本年度の発表数をはじめて千の大台に達し、当初申込みで実に 1048 を数えるに至った。このため、当福岡市においては、学校関係以外に適当な会場を求めることはきわめて困難であり、結局、紛争の懸念をいだきながらも九州大学において実施することとなった。幸いにも、1800 名を越える参加者を集め、盛会のうちに全国大会を開催することができ、当初の懸念が徒労であったことは喜ばしい限りである。

本年度の全国大会は、とくに新機軸を打出すことは考えず、ほぼ前年度なみの内容とすることを意図した。ただ、物価の上昇ならびに大会規模の増大に伴って、運営

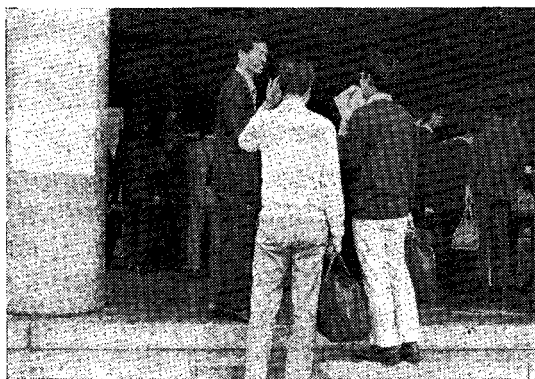


写真-3 総合受付に立寄る大会参加者

に必要な経費が年々増加し、膨大なものとなる傾向にあり、しかもその大半を賛助者のご厚志によっている現状であるが、本年度はこれに少しでも歯止めを打つことを祈念した。その結果、学術講演数の飛躍的な増大にもかかわらず、経費的に所期の目的を達することができた。

2. 特別講演会

大会第 1 日目の午前中、内田一郎西部支部長あいさつのち、下記の特別講演が行なわれた。

9.00~10.30 地震工学の現況(別掲)

土木学会会長 岡本舜三

10.30~11.10 九州経済の動向(後日登載の予定)

九州・山口経済連合会専務理事 浜 正雄



写真-1 全日雨に見舞われた九大キャンパスと大会参加者

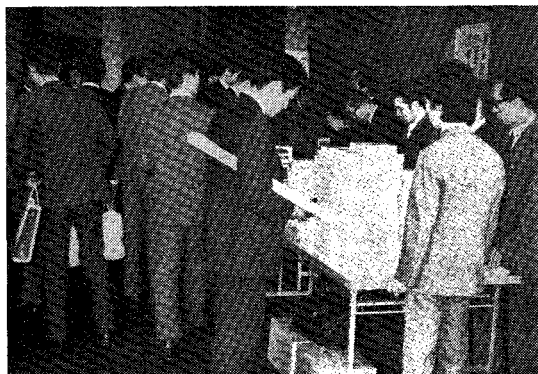


写真-2 講演概要集を買求める大会参加者

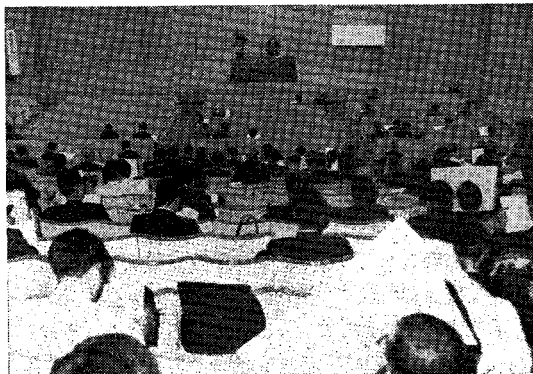


写真-4 特別講演会会場全景



写真-5 特別講演会が行なわれた記念講堂

11.15~12.10 筑紫路の大宰府（別掲）

福岡県文化財委員会専門委員 筑紫 豊

特別講演会は九州大学の記念講堂で開催された。前日までの秋晴れの天気も、あいにくの雨で出足が鈍り、聴講者の数が危ぶまれたが、定刻以降も続々来講され、終局的には530名の出席者があった。

講演内容は、専門・経済・文化とバラエティーに富み、講師の方々の高い識見と、巧みな話術に参加者一同深く傾聴し、まことに意義あるものであった。

3. 研究発表

46年度の研究発表 849 編に対し、47年度は 1026 編（当初申込み1048、発表中止22）の多数を数えるに至り最近にない急激な増加を示した（図-1 参照）。このため

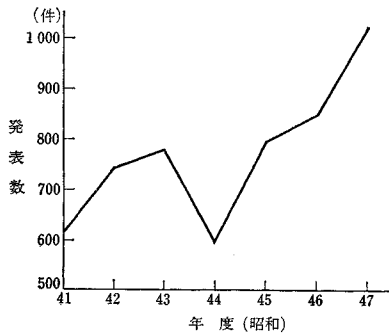


図-1 研究発表件数の経年変化

講演会場として当初の予定 15 会場を急ぎよ 21 会場にふやし、同じ大学構内とはいえ、広く分散することとなった。

各部門別の発表数は表-1 に示すとおりで、参考までに昨年度の部門別発表数を列記した。いずれの部門も昨年度に比して増大しているが、とくに増加率の高いのは第Ⅲ部門の 29.0%、第Ⅰ部門の 23.5% である。

各会場のおよその聴講者数は表-2 に示すとおりであ

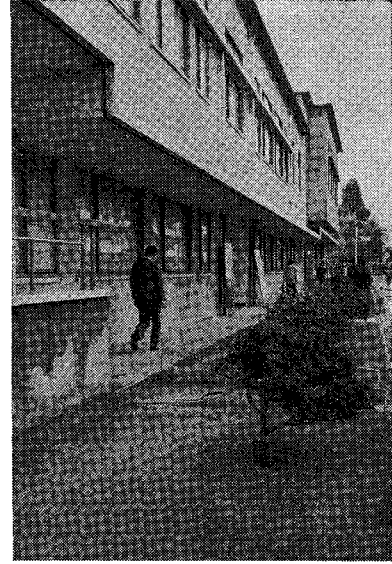


写真-6 第Ⅰ部門関係の発表が行なわれた工学部防音講義室



写真-7 第Ⅱ、Ⅲ部門関係の発表が行なわれた文学系講義室



写真-8 第Ⅳ部門関係の発表が行なわれた農学部防音講義室



写真-9 第V部門関係の発表が行なわれた理学部2号館

表-1 研究発表数

| 部 | 門 | 発表数(件) | | 増加率 (%) |
|--|---|--------|-----|------------|
| | | 本年度 | 昨年度 | |
| 第I部門 (応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋など) | | 284 | 230 | 23.5 |
| 第II部門 (水理学・水文学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学など) | | 270 | 232 | 16.4 |
| 第III部門 (土質工学・基礎工学・岩盤力学など) | | 187 | 145 | 29.0 |
| 第IV部門 (道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量など) | | 140 | 116 | 20.7 |
| 第V部門 (土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリートなど) | | 145 | 126 | 15.1 |
| 計 | | 1026 | 849 | 20.8 |

表-2 学術講演会聴講者数

| 区分 | 会場 | 10月20日 (金) | 10月21日(土) | | 10月22日(日) | |
|--------|------------|---------------|-----------|-----|-----------|----|
| | | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 |
| 第I部門 | 工学部防音201教室 | 30 | 80 | 70 | 60 | 30 |
| | 工学部防音202教室 | 40 | 60 | 40 | 60 | 30 |
| | 工学部防音203教室 | 60 | 30 | 30 | 50 | 30 |
| | 工学部防音101教室 | 110 | 80 | 90 | 60 | 50 |
| | 工学部防音102教室 | 30 | 40 | 40 | 30 | 20 |
| | 工学部防音103教室 | 60 | 30 | 60 | 50 | 40 |
| 第II部門 | 文科系講義室101 | 80 | 90 | 90 | 60 | 50 |
| | 文科系講義室102 | 80 | 120 | 100 | 60 | 50 |
| | 文科系講義室107 | 100 | 50 | 60 | 60 | 40 |
| | 文科系講義室201 | 70 | 90 | 90 | 90 | 60 |
| 第III部門 | 文科系講義室302 | 50 | 90 | 100 | 90 | 80 |
| | 文科系講義室301 | 110 | 70 | 60 | 50 | 50 |
| | 文科系講義室202 | 60 | 40 | 50 | 30 | — |
| | 文科系講義室203 | 60 | 60 | 30 | — | — |
| 第IV部門 | 農学部防音103教室 | 60 | 70 | 80 | 50 | 40 |
| | 農学部防音101教室 | 60 | 50 | 30 | 40 | — |
| | 農学部防音201教室 | 20 | 20 | 40 | 30 | — |
| 第V部門 | 理学部物理第1講義室 | 120 | 80 | 80 | 60 | 20 |
| | 理学部物理第2講義室 | 40 | 30 | 50 | 50 | 30 |
| | 工学部鉄冶第1講義室 | 40 | 40 | 20 | 20 | 30 |

る。また、司会者・総括報告者は次のとおりで、ご尽力いただいたことに謝意を表したい。

司会表および総括報告一覧

(1) 第I部門

司会者:

| | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|
| 三池亮次 | 岡村宏一 | 大村 裕 | 吉田 裕 | 佐武正雄 |
| 会田忠義 | 長 尚 | 夏目正太郎 | 山本 宏 | 倉田宗章 |
| 山本 稔 | 松浦 聖 | 福本嘯士 | 倉西 茂 | 深沢泰晴 |
| 能町純雄 | 米沢 博 | 色部 誠 | 平嶋政治 | 西村俊夫 |
| 西脇威夫 | 渡辺 昇 | 芳村 仁 | 山崎徳也 | 大久保禎二 |
| 波田凱夫 | 秋山成興 | 栗林栄一 | 後藤尚男 | 岩崎敏男 |
| 大久保忠良 | 松野操平 | 小堀為雄 | 土岐憲三 | 田村重四郎 |
| 片山恒雄 | 吉村虎蔵 | 山田善一 | 平井一男 | 赤尾親助 |
| 川口昌宏 | 堀川浩甫 | 伊藤文人 | 西村 昭 | 丹羽義次 |
| 小松定夫 | 菊池洋一 | 前田幸雄 | 堀井健一郎 | 伊藤 学 |
| 後藤茂夫 | 白石成人 | 岡内 功 | 中村泰治 | |

(2) 第II部門

司会者:

| | | | | |
|-------|------|-------|-------|------|
| 室田 明 | 岩崎敏夫 | 細井正延 | 井島武士 | 粟谷陽一 |
| 嶋 祐之 | 岸 力 | 吉川秀夫 | 若佐義朗 | 足立昭平 |
| 角屋 睦 | 西畑勇夫 | 山岡 勲 | 椿 東一郎 | 井上頼輝 |
| 柏谷 衛 | 川島 晋 | 末石富太郎 | 岩井重久 | 平岡正勝 |
| 上田年比古 | 金井昌邦 | 合田 健 | 青木康夫 | |

総括報告者:

| | | | | |
|------|-------|------|-------|------|
| 野田英明 | 光易 恒 | 榎木 亨 | 河野二夫 | 富永康照 |
| 吉高益男 | 土屋義人 | 和田 明 | 椎貝博美 | 河村三郎 |
| 大同淳之 | 村本嘉雄 | 土屋昭彦 | 芦田和男 | 板倉忠興 |
| 今本博健 | 余越正一郎 | 高橋 保 | 木村喜代治 | 高瀬信忠 |
| 高橋 裕 | 長尾正志 | 木下武雄 | 豊国永次 | 金丸昭治 |
| 藤田睦博 | 高橋琢馬 | 須賀亮三 | 丹保憲仁 | 左合正雄 |

松本順一郎

(3) 第III部門

司会者:

| | | | | |
|------|-------|------|-------|------|
| 山口柏樹 | 西田義親 | 赤井浩一 | 小田英一 | 石原研而 |
| 大原資生 | 川本眺夫 | 市原松平 | 河上房義 | 藤田圭一 |
| 玉置 脩 | 鈴木彦彦 | 福岡正巳 | 三木五三郎 | 久野悟郎 |
| 浅川美利 | 伊勢田哲也 | | | |

総括報告者:

| | | | | |
|------|------|------|-------|------|
| 藤本 廣 | 大根義男 | 土岐洋介 | 八木則夫 | 足立紀尚 |
| 太田秀樹 | 浅田秋江 | 小川正二 | 伊勢田哲也 | 桜井春輔 |
| 玉田文吾 | 網干寿夫 | 石堂 稔 | 立石俊一 | 西 勝 |
| 吉田信夫 | 鈴木健夫 | 西田一彦 | | |

(4) 第IV部門

司会者:

| | | | | |
|------|------|------|-------|------|
| 加来照俊 | 山村悦夫 | 奥谷 巖 | 清水浩志郎 | 鈴木忠義 |
| 森地 茂 | 星 仰 | 松浦義満 | 梶原光久 | 河上省吾 |
| 沼田 實 | 西村 昂 | 中原清志 | 明神 証 | 松井 寛 |
| 中村英夫 | 斎藤和夫 | 堀川健六 | 渡部卓郎 | 島田静雄 |
| 飯田恭敬 | 高田 弘 | 樺田裕次 | 青山清道 | 森 忠次 |

総括報告者:

五十嵐日出夫 菅原 操 佐佐木綱

(5) 第V部会

司会者:

| | | | | |
|------|------|------|-------|------|
| 国分正胤 | 岡田 清 | 西沢紀昭 | 児玉武三 | 船越 稔 |
| 後藤幸正 | 吉本 彰 | 河野 清 | 明石外世樹 | 藤田嘉夫 |

村田二郎 長滝重義 小柳 治 神山 一 柳場重正
 小林正凡 西林新蔵 新田 登 大坪正典 樋渡正美
 石川達夫 大浜文彦 小林一輔 尾坂芳夫 吉田弥智
 渡辺 明

4. 研究討論会

本年度も、昨年度と同様の形式および規模で研究討論会が開催された。

研究討論会の各テーマおよび座長・話題提供者は表-3のとおりで、各専門分野の最近の話題を選び、主として土木学会内の該当委員会にそのお世話をいただいた。

表-3 研究討論会テーマ、座長および話題提供者

| 区分 | テーマ | 座長 | 話題提供者 |
|----|--|-------|--------------------------|
| 1 | 構造用鋼板の選定とその設計、施工 (HT 70, HT 80 キロ鎖を含む) | 笹戸 松二 | 明石重雄・財前 孝・中野昭郎 |
| 2 | 構造計算における電子計算機的作用 | 大地 羊三 | 飯田隆一・大坂憲司・宮田尚彦 |
| 3 | 都市産業廃棄物の処理 | 岩井 重久 | 森下忠幸・花島正孝・平岡正勝・岩下彰郎・高月 紘 |
| 4 | 水工学における資料解析について | 吉川 秀夫 | 角屋睦・堀川清司・日野幹雄 |
| 5 | シラス切土斜面の崩壊とその設計 | 山内 豊聡 | 上田通夫・藤本 広・露木利貞・持永竜一郎 |
| 6 | トンネル工事における岩盤調査 | 小野寺 透 | 今西誠也・御牧陽一・高橋彦治 |
| 7 | 幹線交通体系と九州 | 内田 一郎 | 山根 孟・町田富士夫・大塚友則 |
| 8 | 海洋とコンクリート | 樋口 芳朗 | 小林一輔・西沢紀昭・杉田秀夫 |

研究討論会の参加者は、延べ 1050 名にも達し、盛会であった。各会場とも、熱心な話題提供ならびに討議が行なわれ、なかには予定時間を大幅に超過する会場もあった。

なお、研究討論会の詳細な内容については、土木学会誌臨時増刊号 Annual '73 (48 年 4 月発行予定) に掲載されることになっている。

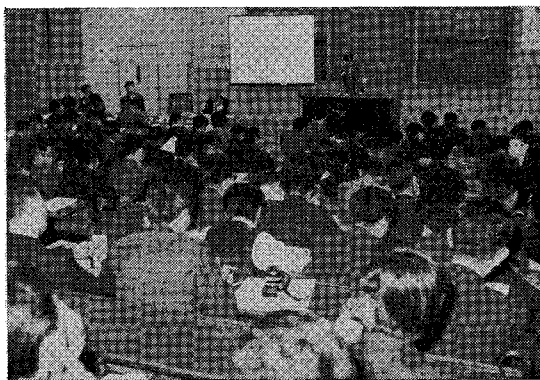


写真-10 研究討論会で熱心に討議する参加者

5. 映画会

本年度は、3 日間にわたり計 30 本を上映した。ごく短時間の研究発表に比し、ゆっくりと眼でみる記録映画は一般受けし、あき時間の利用者を含めて、最大 200 人・延べ 1000 人の盛況を呈した。以下に、上映フィルムならびに提供者を記し謝意を表する。

① 筑紫の国文化財 (福岡県)、② 松原下釜ダム建設記録 (総集編・九州地建)、③ グラベルに挑む (奥村組)、④ 犬山導水路トンネル (熊谷組)、⑤ 未来をひらく東名高速道路 (道路公団)、⑥ 三井鉱山第三人工島築造工事 (三井建設)、⑦ OCW 工法 (奥村組)、⑧ よかとこ福岡 (福岡県)、⑨ 海底に結ぶ (新日鉄)、⑩ 新熊本空港 (第 4 港建)、⑪ MCS (マックス) 工法 (西松建設)、⑫ 羽田水底トンネル (大林組)、⑬ 川の上を走る高速道路 (首都公団・土木学会)、⑭ 海を開く傾斜沈埋函 (間組)、⑮ 建設への参加 (東名高速道路・住友建設)、⑯ 東京～福岡 6 時間への挑戦 (国鉄) ⑰ アスファルト遮水壁ロックフィルダム (大成建設)、⑱ 天草五橋 (道路公団)、⑲ 80 万トンドックの誕生 (五洋建設)、⑳ ゆるぎなき基礎 (鴻池組) ㉑ ふるさとを守る九州の河 (九州地建)、㉒ SSS 工法 (清水建設) ㉓ アルプスにダムが出来た (総集編・鹿島建設)、㉔ 多摩川をわたる沈埋トンネル (鉄建公団・土木学会) ㉕ 拓けゆくインドネシア (大成建設)、㉖ 原子力とともに (鹿島建設)、㉗ PC ブロックカンチレバー工法 (鉄建建設)、㉘ 津波との闘い (清水建設)、㉙ 巨大なニューマチックケーソンの記録 (大林組)、㉚ 世界の道路と都市 (高速道路・道路公団)

6. 見学会

本年度は、従来より行なわれていた旅行会は計画せず、関門コースおよび玄海コースの両見学会を催した。

関門コースは、山陽幹線関門トンネルと関門橋の両巨大土木工事の見学であること、および本州・北海道方面の会員諸氏の帰途途上にあることから、8 月末の締切りと同時に定員をオーバーする申込みがあり、申込みをお断わりした方々もある。また、玄海コースは、九州初の原子力発電所と、わが国最大の鉄筋コンクリート製 2 ヒンジアーチ橋の見学を計画したが、この分野に関心の深い方々から定員を越える申込みをいただいた。

(1) 関門コース (10 月 23 日)

福岡市天神の西鉄バスセンターを、定刻 8 時 30 分に出発した。申込者は 92 名であったが、20 名の不参加があり添乗者を含め総勢 76 名となった。この日は快晴に恵まれ、目的地の関門橋および新関門トンネルへと国道 3 号線を東進する。途中福岡市内の混雑を抜け、香椎バイパス、宗像バイパスを快適にとぼし、北九州市八幡区に入る。三菱化成黒崎工場、新日本製鉄八幡工場等の工

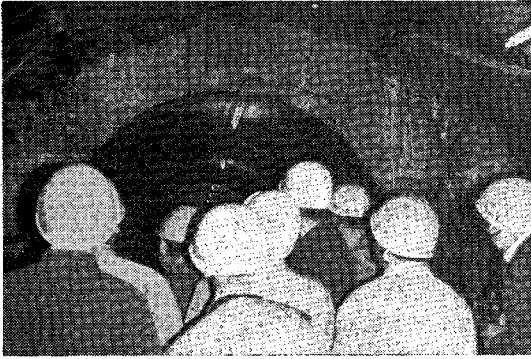


写真-11 新関門トンネルを見学する参加者

場街をとおり、戸畑バイパスのハイウェイに入ると左側に響灘の青い海が遠望でき、また眼下には黒ずんだ洞海湾と空にそびえる若戸大橋が見える。小倉区より北九州道路（有料）をとおり、門司区老松町交差点に至る。ここで国道3号線と分れ2号線に入る。関門国道海底トンネルを通過して下関市棕野インターチェンジを左回りすると前方が開け、関門海峡が見えだす。ここは源平合戦で有名な壇の浦である。目的地に11時20分到着した。

a) 新関門トンネル見学

用意されていた作業衣に着替え坑内に入る準備をすませる。火の山斜坑口で国鉄下関工事局吉川線増一課長から概況説明を受ける。本トンネルは、山陽新幹線岡山一博多間を昭和49年12月開業を目標に計画され、総工費は200億円である。延長は18k675m、曲線半径 $R=3500$ m、最急勾配は18%で、関門海峡を横断する3番目のトンネルである。そのうち火の山工区の担当は本坑2060m（海底880m）で斜坑400m、調査坑540mで、昭和45年3月着工し竣工は昭和49年3月の予定という。現在斜坑400mはでき上がり、調査坑を約170m残し本坑の一部に着手している。着工以来地質不良で難航し、斜坑の工程が遅れた。また、地質調査資料から難航を予想された斜坑交点より300m間のうち約30mの断層破砕帯での調査坑掘削は難工事となり、特殊工法、注入工、メッセル工法、パイプルフ工法を取入れ貫通させた。本坑は現在導坑先進上部半断面工法で推進している。見学は約10名を1班として入坑、斜坑は人車を使用した。坑内は通風扇の音が少々やかましく、ところどころでカメラの閃光が光っていた。

b) 関門橋見学

トンネル斜坑より約200mの場所に日本道路公団関門建設所関門架橋工事事務所がある。早速資料室に入り、大橋所長より概況説明を受ける。

関門橋は中国縦貫道の終点（下関市）と九州縦貫道の起点（北九州市門司区）とを結ぶ国道橋で、早鞆の瀬戸に架設される吊橋である。

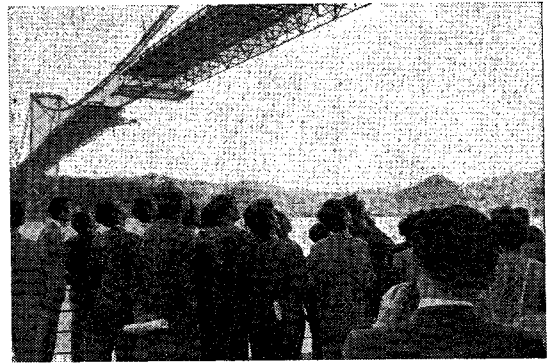


写真-12 関門橋を見学する参加者

橋長1068m、橋幅29m、橋塔 $h=133.8$ mで総工費306億円、昭和48年秋開通の予定である。

現在吊橋のメッセンワイヤーと路面を支える補剛桁を取付中であり、約100mが残されている。資料室ではメインロープ取付け、橋塔建込みの苦労等に質問があり予定時間を30分過ぎるほどであった。また、現場では篠原技師の説明、見学者の質問があり、関門橋をバックにとりどころで記念スナップの取りあいがあった。

空にそそりたつ橋塔、瀬戸をまたいだ橋は、さながら夢の架橋で、現在ペイント塗装の色について環境庁と航空局で協議中とのことである。関門橋完成により現在まひ寸前の関門国道トンネルの交通状態も緩和され、本土と九州との連絡はよりいっそう増すものと期待される。14時46分見学を終り、工事関係者の健康と無事を祈りながら帰速に着く。途中、門司駅・小倉駅下車の見学者と分れ、国道3号線を南下し17時35分博多駅に着く。そのころは博多の街にはネオンがともし、夜の町に変わっていた。終点福岡市天神バスセンターには17時40分到着して見学会は終了したが、途中バスガイド嬢の不慣れで十分な案内ができなかったことは残念である。最後に見学会の熱心な会員諸氏の協力と見学地での国鉄下関工事局、および日本道路公団関門建設所関門架橋工事事務所の協力を深く感謝するしだいである。

(2) 玄海コース（10月23日）

福岡市天神の西鉄バスセンターを、定刻9時を5分ばかり過ぎて出発した。

申込者は50名であったが、9名不参があり、添乗者を含めて総勢43名になった。

途中、よく舗装された国道202号線を快適にとばし、右に玄海国定公園の風光を賞でながら、悲恋の伝説の山である鏡山、小笠原氏の旧城である舞鶴城の横をとおり、目的地玄海発電所に11時30分に到着した。

早速、資料館で増田所長、永島土木課長、井上建築課副長から事業概要と工事の概要を聞き、中食後、13時か

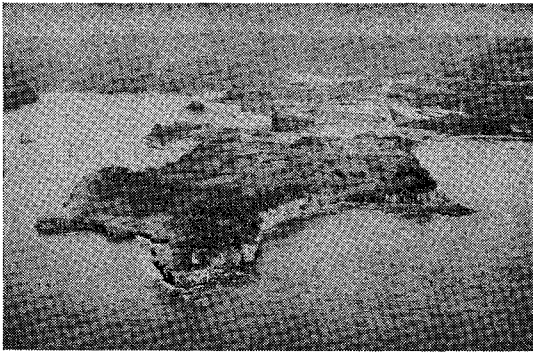


写真-13 玄海発電所全景

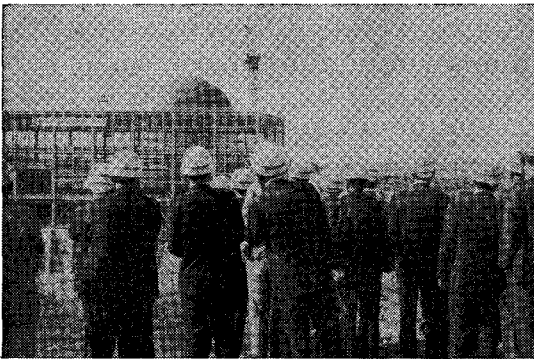


写真-14 玄海発電所を見学する参加者

ら構内の見学に移った。77万1000m²の広大な発電所用地の各所には、昭和50年7月の営業運転開始をめざして建設の槌音が高らかにひびいていた。

総工事費464億円で、現在工事の進捗率は36.5%とのものであった。

工事の特色としては、取水口、海上構造物にプレパックドコンクリートを採用したことと、貯水用ダムを連続地中壁工法で築造したことである。展望台で記念撮影をしたのち、本岸壁、取水口、ピット、格納容器、放水口、ダム等を見て、13時50分ころ再び資料館に帰った。

それから、近くで施工されている国道204号線の外津橋^{ほつばし}の工事概要を佐賀県唐津土木事務所の宮崎課長からうかがい、14時から架設現場の見学を行なった。

外津橋は、鉄筋コンクリート2ヒンジアーチで、橋長247.1m、この形式では全国一とのことである。昭和47年4月着工、49年3月完成予定で、現在は兩岸の基礎を施工中であった。

現場が海上33.5m、水深20mという地形条件から架設方法はアーチリブを特殊架設作業車で施工していくと同時に橋脚をたち上げ上床版を施工し、ある時点でアーチリブを吊り上げる斜吊材をアーチリブと上床版上に設置し、アーチリブ橋脚、上床版、斜吊材とで構成するトラス構造を片持ばり^{かもちばり}で順につぎたしていくことによって橋体を完成してゆく特殊工法が採用されている。

この橋が完成すれば、これまで海上交通にたよっていたこの地区の経済文化の向上は、めざましいものがあると大いに期待されているという。

14時20分ころ見学を終り帰途についたが、曲折した入江、岬、そのかなたの玄海灘の紺青の中に大小の島々が浮ぶ景観の中をとおりながら、ガイド嬢の急病のため十分な説明もできず、皆様に楽しんでいただくことのできなかったことは残念であった。

しかし、快晴にめぐまれ一人の事故もなく、無事に定刻17時に博多駅前に到着できたことは、皆様のご協力のお蔭と感謝いたします。また、九電、佐賀県の関係各位には大変お世話になりました。紙上をかりて厚くお礼を申し上げます。

7. 懇親会

懇親会は予定どおり10月21日(土)18時30分より福岡市天神にある西鉄グランドホテルで行なわれた。

九州では7年ぶり、それも初めての秋の大会とあって予想どおり約300名の会員参加があり、盛会となった。

会場では安部懇親部長の司会により内田西部支部長、岡本会長の挨拶があり、次回開催地を代表して林北海道支部長代理の祝辞と続き、松尾大会実行委員長により乾杯が行なわれた。この後、地元として吉本西鉄社長の歓迎の挨拶があり、会員相互の懇談に移ったが、参加者はその後もふえ会場も満員の盛況となった。

その間、ユーモアに富んだ米田、古賀両参議院議員、さらに坂野副会長の暖い祝辞をいただき、宴もようやく佳境へ向った。福岡市の有志でつくっている前田楽団の“かなでる”ソフトなムードミュージックをバックに色とりどりのホステスが往きかう中を、ビール等がすすむにつれて久しぶりの再会を喜ぶ声など、あちこちでなごやかな談笑の輪ができ、しばし時間のたつのも忘れて宴が続いたが、20時、まだ余韻を惜みつつ、篠原副会長の音頭による万才三唱で懇親会を終了した。



写真-15 盛会をきわめた懇親会

8. 謝 辞



内田 支部長

このたび土木学会昭和 47 年度全国大会を当西部支部担当のもとに福岡市において開催し、特別講演会、第 27 回年次学術講演会、研究討論会、映画会、懇親会および見学旅行会をすべて盛会裡に無事終了することができました。これは、ひとえに会員諸氏をはじめ

賛助者、地元関係各位の絶大なご尽力とご協力のたまものと深く感謝いたします。ここに、誌上を借りて厚くお礼申し上げます。

- 土木学会西部支部長 内田 一郎
 土木学会昭和47年度全国大会実行委員長 松尾 寿一
 土木学会昭和47年度全国大会財務委員長 直村 徳三

昭和 47 年度全国大会実行委員会関係者名簿

- 西部支部長 吉田喜市 内田一郎
 準備委員長 篠原謹爾
 実行委員長 南部三郎 松尾寿一
 財務委員長 直村徳三
 顧問 山下博通 小笠原二郎 小林博憲 簡井寅吉
 佐藤満雄 渡辺政男 日高又弘 信田正雄
 島田隆夫 芝田為茂 広門正康 吉田喜市
 本田富雄 古賀公平 室屋清次 香丸菊雄
 田中泰造 氷室伸三郎 勝元 元 椿東一郎

- 吉村虎蔵 彦坂良次 乙藤憲一 加藤乾二
- 実行委員**
 総務 今山 健 工藤繁人* 平田達夫 磯俣敏行*
 関 一毅*
 特別講演 田中 稔 中野健次* 金丸国信 重富晴信
 学術講演 篠原謹爾 内田一郎 椿東一郎 井島武士
 沼田 實 上田年比古 粟谷陽一 山内豊聡
 小坪清真 徳光善治 渡辺 明 石川達夫
 吉田信夫 石堂 稔 榑木 武* 平野宗夫
 彦坂 照 楠田哲也 後藤恵之輔 塚塚克忠
- 映 画 迫 秋一* 古田 宏
 懇 親 会 安部重彦* 松井寛人 築城 永 上田克己
 山内勝彦 沢村武助*
- 見 学 会 中釜 栄* 岡本昭男 安部悠紀雄 石丸 勇
 設 営 原 茂恭* 岩熊 健 藤井利治 石井聖治
 井 哲朗* 井沢卓爾
- 経 理 鈴内克洋* 馬嶋礼次* 青野 満*
 監 査 大塚照久* 大野幸男*
 事 務 局 藤田市郎 久保静江

(* 印幹事)

財務委員

- 直村徳三 磯村 博 古賀公平 田中泰造
 森 貞二 香丸菊雄

昭和 47 年度全国大会賛助者

土木工業協会九州支部 鉄道建設業協会福岡支部 日本道路建設業協会九州支部 電力建設業協会九州支部 港湾建設協会
 ルビー会 鉄鋼業関係 PC工業協会九州支部 九州セメント
 会 九州生コンクリート事業者団体連合会 建設コンサルタン
 ト九州支部 全国測量協会九州支部 九州地質測量協会 九
 州電力(株) 新日本製鉄(株) 西日本鉄道(株)

第 27 回年次学術講演会(九州大学)講演概要集

昭和 47 年 10 月 20 日~22 日まで、九州大学で行なわれた 標記講演会の講演概要集の残部がありますので希望者はお申込み下さい。

| 部 門 | 内 容 | 題 数 | ページ数 | 頒 価 |
|-----|------------------------|-------|-------|-------------------|
| 1 | 応力・構造・橋梁など | 284 | 878 | 2 000 円 (〒 200 円) |
| 2 | 水理・水文・河川・港湾・海岸・発電・衛生など | 270 | 780 | 1 900 円 (〒 200 円) |
| 3 | 土質・基礎・岩盤など | 187 | 624 | 1 300 円 (〒 200 円) |
| 4 | 道路・鉄道・交通・都市計画・測量など | 140 | 378 | 1 000 円 (〒 170 円) |
| 5 | 材料・施工法・コンクリートなど | 145 | 412 | 1 100 円 (〒 170 円) |
| 合 計 | | 1 026 | 3 072 | 7 300 円 (〒 600 円) |

なお第 26 回(前回分で東北工大で開催)講演概要集の残部もあります。1セット 5 600 円 (〒 600 円) で分売もいたします(部門・内容とも 27 回と同じ)。

会 誌 記 事 訂 正 の ご 案 内

| 巻 号 | ペ ー ジ・行 | 誤 | 正 |
|-----------------------|------------------|-------------|--------------|
| 57 巻 11 号 (10 月 号) | 38 ページ 下から9行目 | 爆破は 図-7 の…… | 爆破は 図-6 の …… |

コンクリート工学 ●森北土木工学全書 5

伊東茂富 著 大成建設(株)理事・工学博士 A5判・400ページ ¥2600

本書は、著者永年に亘る経験や研究成果をもとに、構造設計、材料、施工などの分野に、さらには各分野内部においても細分化が進行しているコンクリートを総体として把握し、その基本的事項に30%以上もの紙面を費やして詳しい解説をし、理論と実際とが緊密な連係を持つように留意しつつ執筆されたもの。

主要目次 1. 緒論 2. セメントの硬化および硬化体の性質 3. まだ固まらないコンクリートの性質 4. 硬化したコンクリートの性質 5. 材料 6. 配合 7. 練混ぜおよび運搬 8. コンクリート打ちおよび養生 9. 特殊なコンクリートの施工 10. 品質管理および試験

現場の海岸工学 侵食編

豊島 修 著 菊判/¥2800

著者がこれまでにえた豊富な資料や研究成果をもとに、海岸侵食の問題を意欲的に解明した書。

目次 序論/海岸侵食の形態/漂砂/侵食対策調査/侵食対策の計画と工法/海岸堤防・海岸護岸/突堤/離岸堤

現場のための海岸工学〔高潮編〕 菊判/¥1800

都市計画 ●森北土木工学全書18

今野 博 編 A5/¥2200

アースダムとアースロックダム

河上房義 監訳 B5/¥4800

新土木設計データブック 全2巻

成瀬勝武 編 B5/上¥6000・下¥6500

森北出版

東京都千代田区神田小川町3の10
電話03(292)2601 振替東京34757

【図書目録呈(読者Q1-12係)】

山海堂 現場技術者のための

図書案内*

東京都新宿区細工町15
振替・東京・194982
☎ 03(269)4151 代

新版 道路工事 ポケットブック

多田宏行・矢部正宏 著
新書判 290頁
価 950円

推せん ■高橋国一郎(建設省道路局長)

最近における新しい理論や道路建設の傾向をも取り入れ、平易かつ簡潔に取りまとめであり、道路の設計、施工および監督に携わるすべての技術者にとって有益な著書である。

主要目次 1.土工土の性質・ボーリングと現位置試験他 2.排水準備、表面、のり面、地下排水他 3.のり面保護工植物類・コンクリート類 4.擁壁石、ブロック積み擁壁他 5.路盤路盤材料・路盤工 6.アスファルト舗装 7.セメントコンクリート舗装 8.簡易舗装

現場技術者のための **コンクリート工事** ポケットブック 大内雅博・秋元泰輔 著 1500円
小原忠幸・小黒圭一 著

道路建設講座 第8巻 8回配本 発売中!! 道路構造物の設計と施工

神谷 洋・玉野治光・沢井広之・斉木三郎・藤井治芳 著

本書は、道路構造物の設計、施工、材料その他最近考案された改良基礎、新工法などについて著者等の豊富な経験、知識によって実例をあげながら詳述した必携の書。 2000円

●管工事施工管理技士試験受験者に最適の定本! 解説付 空調・衛生技術者試験

蔵前設備研究会編 空調設備編と衛生設備編とに分け、それぞれ過去の問題や今後出題のポイントとなる問題を懇切丁寧に解説。
A5判 1500円

図解コンクリートの施工実務

宮坂慶男 著 A5判 192頁 980円

災害防止対策工事 特集 土木施工 臨時増刊 特価 480円